



検査部だより

第21号 平成30年1月

謹賀新年 2018年を迎えて

中央検査部 技師長 橋本 秀哉

あけましておめでとうございます。

新年のスタートにあたり、年頭のご挨拶申し上げます。

平素より臨床検査へのご理解とご協力感謝いたします。

中央検査部は、前林技師長を中心に検査部の理念でもある、正確で迅速な検査の実施、チーム医療の一員としての臨床支援、に力を注ぎ、受診される患者さんならびに地域の方々に、信頼できる臨床検査の提供を行って参りました。

今年は、さらに一歩進めて「臨床現場とつながる検査部」をスローガンに掲げて、改善と改革を進めていきたいと思っております。

具体的に、昨年末から始めている外来採血業務の充実と検査データが読め、検査依頼側に助言できる検査技師の育成に取り組んでいきたいと考えています。

検査技師本来の業務、「検査前の説明を行い、検体を採取し、検査を実施し、結果を説明する。」に近くことになると考えています。

検査部全体で取り組んでいきたいと考えていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



今回は、血圧脈波検査についてお話します。

血圧脈波検査では

- 血管（動脈）の硬さ（→動脈硬化）
- 血管（動脈）の詰まり具合 がわかります。

両腕・両足首の4か所の血圧と脈波の伝わり方を同時に測定します。

5～10分程で測定できます。



わずかな時間で、簡単に血管の状態（血管年齢）を知ることができます。

☆動脈は、心臓から送り出される血液を全身に運ぶパイプのような血管です。心臓から出た血液は、体の隅々をめぐる心臓に戻ってきます。そのため血液は、心臓から勢いよく送り出されます。この勢いに耐えられるよう、動脈はとてもしなやかであり、簡単に破れたり詰まったりしない、強さと弾力性を備えています。

☆**動脈硬化**とは、動脈が、壁にコレステロールや中性脂肪などがたまることで弾力性や柔軟性を失い、硬くもろくなる状態のことを言います。





動脈の硬さ

動脈の壁が厚くなったり硬くなったりすると、弾力性がなくなり、心臓の拍動（脈波）が伝わる速度が速くなります。この検査では、脈波が動脈を通じて手や足に届く速度を測ることにより、動脈の硬さ（しなやかさ）を調べます。

動脈の詰まり具合

足首の血圧を、横になった状態で測定すると、健康な人では腕の血圧と同じくらい、あるいは少し高い値となります。しかし、足の動脈が詰まっていると腕の血圧に比べて足の血圧は低くなります。そこで、足首と腕の血圧を同時に測定し、その比率を計算することで、動脈が狭くなっていないか、詰まっているかを推定します。

動脈硬化は全身に起こります。放っておくと、例えば…

脳

脳出血 脳のもろくなった血管が、やぶれて出血します。

脳梗塞 脳の血管が詰まってしまいます。



心臓

狭心症 心臓に酸素や栄養素を運んでいる血管（冠動脈）が狭くなります。

心筋梗塞 心臓を取り巻く冠動脈が、血栓等で詰まった状態になります。



足の血管

閉塞性動脈硬化症 足の動脈の血流が減り、歩くと足が痛む・しびれる・冷たく感じるなどの症状が出ます。



上記の他にも様々な病気を引き起こします。



動脈硬化が進行する原因は、主に、加齢や生活習慣病です。高血圧・糖尿病・脂質異常症といった生活習慣病にお心当たりのある方や、足に痛み・しびれ・冷感などの症状がある方は、かかりつけ医にご相談され、**血圧脈波検査**を受けられることをお勧めいたします。

